



平成 20 年 6 月 18 日

報道関係各位

株式会社 UMN ファーマ

細胞培養によって製造する新型インフルエンザワクチン UMN-0501 の第 I/II 相臨床試験を開始

株式会社 UMN ファーマ(本社:秋田県秋田市、社長:金指秀一、資本金:18 億 7,376 万 2 千円)は、細胞培養によって製造する新型インフルエンザワクチン UMN-0501 の第 I/II 相臨床試験を本日より開始いたします。細胞培養による新型インフルエンザワクチンの臨床試験の実施は、UMN-0501 が日本初となります。今回の試験は、20 歳から 40 歳の健康な男性 125 名を対象として当該治験薬の安全性、有効性及び用量の検討を行うことを目的とし、年内に結果を得る予定です。

今回の臨床試験開始に先立ち、厚生労働省より希少疾病用医薬品(オーファン・ドラッグ)として指定を受けた UMN-0501 は、細胞培養によって産出されるリコンビナントタンパク^(※)製造技術を使用する新型インフルエンザワクチンです。従来の孵化鶏卵を用いて製造する既存のワクチンでは製造に約 6 ヶ月かかるとされていますが、UMN-0501 は製造期間が約 8 週間と大幅に短縮できることから、ワクチンを短期間で大量生産することが可能となります。当社では臨床試験の実施と並行して、秋田市にワクチン製造施設の建設を進めており、年間 1,000 万人分の新型インフルエンザワクチンの生産を目指しています。

当社代表取締役社長 金指秀一は、次のように述べております。「新型インフルエンザは世界的大流行が懸念されており、国を挙げての対策が急務とされています。ワクチンに対する安全保障上のニーズが高まる中で、当社の開発するワクチンは短期間に大量に製造できるメリットを持っており、一刻も早く UMN-0501 の安定供給をできるよう着実に臨床試験を進めてまいります。」

《ご参考:新型インフルエンザについて》

新型インフルエンザとは、動物、特に鳥類のインフルエンザウイルスがヒトに感染し人体内で増殖することが出来るよう変異して、ヒトからヒトに感染するようになったウイルス性の疾患を指します。この新型インフルエンザは、人間界にとっては未知のウイルスで、人類のほとんどが免疫を持っていません。そのため、容易にヒトからヒトに感染して広がり重篤化しやすく、急速な世界的大流行(パンデミック)が引き起こされる危険性があります。

(※) 遺伝子組換え技術によって作製されたタンパクを指す。大腸菌、酵母、昆虫、動物等の細胞に目的の遺伝子を組み込むことで人工的にタンパクを生産することが可能。インスリン、インターフェロン、抗体医薬等のリコンビナントタンパクが、既に医薬品として承認されている。



■株式会社 UMN ファーマについて

株式会社UMNファーマは、Unmet Medical Needs（未充足医療ニーズ）^(※)を満たす薬剤を開発する創薬ベンチャーとして平成16年に設立しました。大学や企業等の創薬シーズの中から、医薬品になる確率の高いものを的確に選び出し、スピーディーに開発を進めています。現在、インフルエンザワクチン、肺炎治療薬を主なパイプラインとしています。

(※)Unmet Medical Needs とは、満足な治療法が存在しない治療領域において新規薬剤を待望する社会全体の期待を表す。

設立： 2004年4月20日
代表取締役社長： 金指 秀一
医師、医学博士、日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会専門医
本社： 秋田県秋田市中通 3-1-9 ダイアビル秋田 901
東京本社： 東京都渋谷区神南 1-15-8 兼仲ビルディング 4F
TEL 03-5728-5420
ホームページ： <http://umnpharma.com/index.html>

— 本件に関するお問い合わせ先 —
株式会社 UMN ファーマ 取締役(事業開発部長)
林 成浩
電話：03-5728-5420
E-mail：press@umnpharma.com